



中野区政を立て直す！

－職員ファースト区政からの脱却－

中野区議会議員・博士（工学）

加藤 たくま

活動レポート vol.10

36年間、中野区職員出身が中野区長を務め、新たな発想がない前例踏襲型の職員ファーストの区政が続き、時代に対応する能力が育まれていません。

○身内に甘い査定的人事評価

現・中野区長は人事評価制度において、5段階（1～5）の下位である1・2の評価をなくしました。緩い人事評価は、メリハリがなく、より緊張感がない職場環境へと改悪しました。役人天国ともいえる状況が長年続き、多くの職員が仕事へのやる気がなく、管理職への希望者も少ない状況です。人事評価の抜本的な改革を訴えていきます。

○区民よりも職員の意向を大事にする体制

納税のありがたさを育むための一般職員による税金滞納者への戸別訪問事業の廃止、区民ニーズではなく職員都合の施設配置計画、仕事のやり方の変化を恐れたデジタル推進への抵抗を許すなど、職員ファーストの区政運営となっております。区民のための政治・行政へと変革すべく抵抗勢力と戦います。

○実効性・有効性がない、ずさんな計画

区長公約でいくつかの条例を制定するも、理念・義務・罰則規定がない骨抜き理念条例です。罰則規定による仕事の増加を避けるためとも考えられます。区民サービスの向上のため、魂のこもった条例の制定を目指します。

○熱意・アイデアがない業務体制

公園遊具のリニューアルは、区職員が事業者丸投げしたために、区民ニーズではなく事業者ニーズが優先される結果となり、どの公園も同じ滑り台ばかりとなりました。このような事例は内部で後を絶たず、発注者である区役所に熱意・アイデアがないため、区の大切な財産が残念な形になっております。区民ニーズを最大限にすべく、議会から提案します。

○聖域だらけ、名ばかりの構造改革

コロナによる財政悪化を構造改革により抑制すると豪語するも、根底に職員ファーストの考え方があるために財政効果はほぼありません。区民のための抜本的な構造改革を促します。

【加藤たくまプロフィール】

昭和54（1979）年7月3日ひつじ年 東京都中野区生まれ（父：館山市、母：山形市）、O型、ほぜんじ幼稚園、中野区立仲町小（現・桃花小）・中野九中（現・中野中）、都立富士高、中央大学理工学部土木工学科・同大学院、博士（工学）取得
中央大学教育技術員（助手）、国土交通省国土技術政策総合研究所研究官（国家公務員）、国土技術研究センター研究員（シンクタンク）を経て、中野区議会議員（現在2期目）

主な役職等：中野区教育振興会理事、都立富士高アメフト部後援会長、都立富士高同窓会改革実行検討委員、中野区ラグビーフットボール協会会長、2018年度東京青年会議所中野区委員会委員長、第42回わんぱく相撲中野区大会副会長、中央大学理工学研究所客員研究員、中野区検定委員、弥生町五丁目町会交通部長、あおいちゃんを救う会（10日間で1億円の募金活動の成功）、中野区ものしり博士取得、マニユフェスト大賞（第13・15回）ノミネート、防災士

小さな失敗と大きな成功ができる街NAKANOの提唱

2029年まで新区役所・新サンプラザなど中野駅周辺の大規模開発が推進予定です。しかし箱モノができて、魅力ある事業がなければ、ほかの街との競争に負けてしまいます。そのため中野駅周辺で生まれた活力が中野全体に波及させるための方針案を提唱させていただきました。

< 3つのマネジメント >

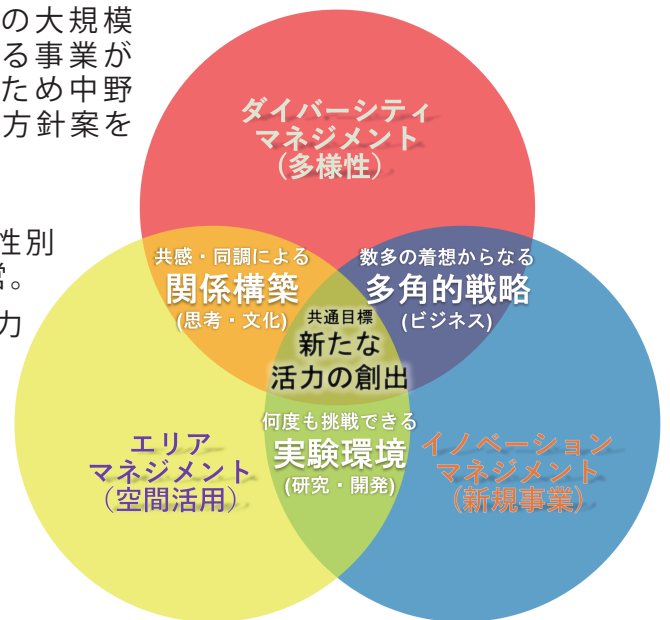
○ダイバーシティマネジメント：多様な個の力（専門性・性別・国籍・障害など）を活かした人間関係の構築や組織運営。

○エリアマネジメント：社会活動による地域のブランド力を向上させる運営。（交通利便性などに頼らない）

○イノベーションマネジメント

特区制度などを活用し、中野独自の新規事業が立ち上げやすい環境づくり。

これらの掛け合わせることで
共通目標「新たな活力の創出」を実現。

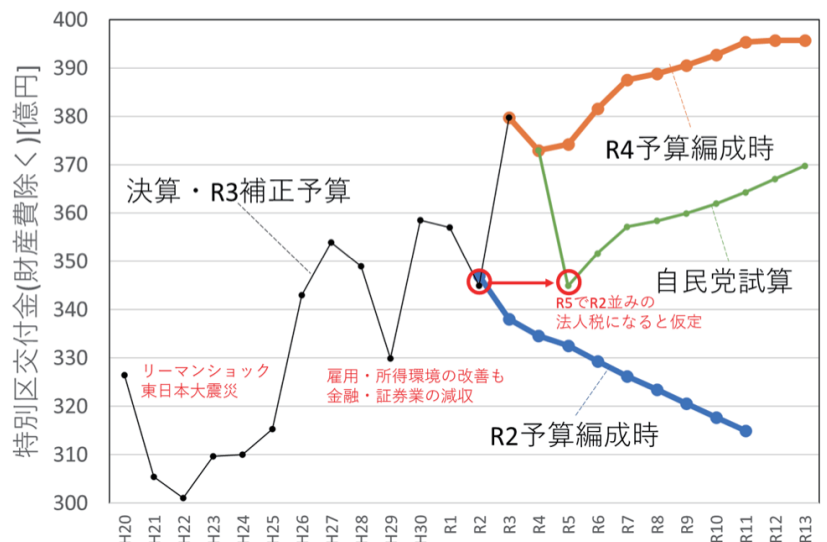


許されざる中野区のずさんな財政計画の検証

3月閉会の中野区議会で一年間で最重要議案である当初予算に自民党は数十年の歴史の中で、初めて反対をしました。

理由は、ずさんな財政計画にあります。令和5年度以降の歳入を30億円程度甘く見積もり（オレンジ：区、緑線：自民党試算）、さらに新たな経常経費20億円を踏まえておらず、合計50億円程度が不足する危険性があります。予算規模は1000億円程度であり、この見込み差は大きく、貯金が計画通りできるか不明です。

この金額は1校平均52億円である小中学校の建て替え費用に相当し、毎年1校建て替えの計画が本当に実施していけるか疑問が残ります。



ドローン、中野区においてレベル4飛行突入!!

国は無人航空機の有人地帯における目視外飛行、いわゆるレベル4を目指しております。これは人口が多い都心部で、パイロットが直視できない場所までドローンを飛行させるということです。

法律上飛行可能ですが、高層建物による電波障害、ビル風などによる事態を想定し、どの都心部の自治体も積極的な活用には踏み込めない状況です。

そこで私は、中野区、国立研究開発法人建築研究所（茨城県つくば市）等の共同研究を通じて、都市部でのドローン飛行の安全性を確認しながら、ドローンの活用範囲・条件を検証していけるように研究のコーディネートさせていただきました。

自由気ままにドローンが飛行させるわけではなく、建物の外壁点検を目的として、建物の周りからドローンが離れない前提で研究を進めております。

1月17日に3つの実験をしました。ひとつとしては「中野サンプラザと中野区役所間の建物間移動実験」を行いました。

飛行中のドローンがトラブル等の不調に陥った際に、比較的人の少ない屋上に着陸することを想定し、ドローンが中野サンプラザの屋上から離陸し、中野区役所の屋上へ着陸するものでした。実験はすべて成功しました。

